

足に特化した日本初のクリニック

⑬⑦ 足の診療所 (東京都港区)



女性患者にも心地良い雰囲気の受付と待合室

東京の真ん中、地下鉄表参道駅を出て徒歩1分という便利な場所に、足に特化した日本発のクリニック「足の診療所」がある。

米国には「足病外科医師(ポダイアトリスト)」という足専門の医師の資格があり、約1万3000人以上の医師が活動しているが、日本では足に対する健康意識が欧米諸国と比べて低い。そのため、一見小さい傷や症状が、時には足の切断や予後までに影響することはあまり知られていない。

桑原靖院長は埼玉医科大学で学んだ後、この分野の医療活動を続けてきた。どの診療科に行っ

たらいいのかわからない患者が多かったり、足の切断に至るまで重症化したりするケースを多数見てきたことから、2013年に同診療所を開院した。

米国の足病外科医師の監修の下、足病学の考え方や最新治療を取り入れ、細かい足の間診や治療効率の良い巻き爪治療などを実践。足の治療には血管外科、形成外科、整形外科、皮膚科などの知識が必要となるので、複数科の医師が連携したチーム医療を展開している。

今年3月には体外衝撃波治療(ESWT)を取り入れた。半年以上痛みが改善しない難治性の足底



南青山らしくシックな建物外観



足に優しい靴が展示されている



足の診察・治療のために開発された椅子(ポダイアトリーチェア)



体外衝撃波を当てることで炎症が軽減し、局所の血流も改善する



医療用のインソールはオーダーメイドで作成される



荷重のある状態で撮影ができるよう台が設けられたレントゲン室

筋膜炎に対し、12年から保険が適応されるようになったこともあり、ESWT導入後、半年間で118人の患者が訪れ、約8割が改善したという。

同診療所では、足底筋膜炎のような難治性の疾患だけでなく、むくみや水虫、捻挫や外反母趾まで幅広く対応している。また、足の骨格のゆがみが骨盤や全身のゆがみをつくる原因にもなるので、ホルモンの関係で靭帯が緩くなる妊婦に、産後体型にならないよう正しい知識を提供するなど、啓発活動も行っている。

足の不調には靴に原因がある場合もある。この

ため、同診療所では治療だけでなく、正しい靴の選び方なども患者に指導している。

足の診療所は予約制だ。表参道という場所柄、会社勤めの若い女性やビジネスマンも来院するが、口コミで全国からさまざまな症状の患者が来る。足や靴に関しては、日本人よりも外国人の関心が高いため、近隣の大使館関係者も目に付く。

桑原院長は「日本初の足専門の診療所としてこの分野の大切さを訴えていきたい。特に、重症化や切断に至らないよう、早期発見、早期予防の大切さを強調したい」と話している。